



大吉

MEET 長浜・米原・彦根 三成

ver.4.2

（ミツナリスト）が史跡案内
第一陣 三成出生地と秀吉との出逢い
第二陣 賤ヶ岳合戦で情報戦を制す
第三陣 佐和山城跡と周辺寺院をゆく

石田三成 逢える近江路

三成会議

MITSUNARI MEETING

長浜市・米原市・彦根市の石田三成公を慕う
団体などが集結し、三成公の魅力を全国に発信！

- 長浜市文化観光課 ☎ 0749-65-6521
- 米原市シティセールス課 ☎ 0749-53-5140
- 彦根市観光交流課 ☎ 0749-30-6120

▼ SNS でも最新情報発信中！

フェイスブック

X (旧ツイッター)





▲JR長浜駅前に立つ秀吉と三成の「出逢い」の像



▲「お墓が埋まっていた塚に登るとおなかが痛くなると言われていました」と話す石田三成公事蹟顕彰会の木下茂昭さん



▲八幡神社に安置されている供養塔



▲「三成産湯の井戸」まで歩いてすぐ

三成出生地と秀吉との出逢い

石田三成は近江国坂田郡石田村(滋賀県長浜市石田町)に生まれた。淡海歴史文化研究所の太田浩司所長に石田とその周辺を案内してもらおう。

石田会館前の石田三成像と石碑

大膳

ミツナリストが
史跡案内

第一陣

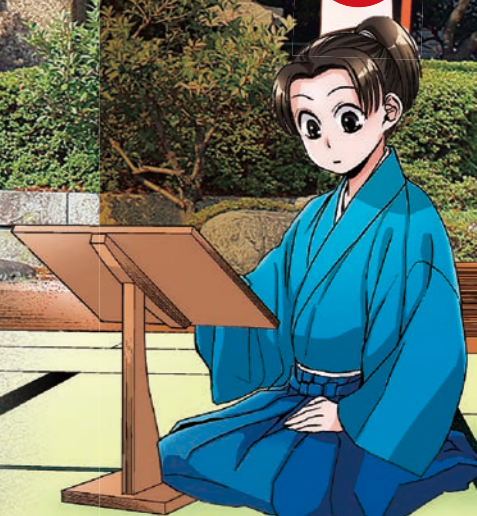


イラスト:もとむらえり
「長浜ものがたり大賞コレクション」
掲載コミック「石田三成の青春」
(原作:松本匡代)より

▲「三成水汲みの井戸」がある大原観音寺。三成関連書が約300冊そろった本坊の「石田三成に「逢える」ブックカフェ」がイベント時や夏休み期間などにオープンする

石田から峠を東に越えた、かつての大原荘内、現在の米原市朝日にある天台宗寺院である(観音坂トンネルを越えてすぐ)。寺内には「三成水汲みの井戸」があり、滋賀県指定文化財となっている600点余のほろその所蔵文書の中に、石田村の土豪だった石田氏の姿が散見される。

三珠院説からは石田家と古橋村の深いつながりを導き出すことができ、関ヶ原合戦の「出逢い」の像が立っている。

大原観音寺と法華寺三珠院

この「ある寺」がどこであるかについては、米原市朝日の大原観音寺説と、長浜市木之本

後、三成がなぜ古橋に隠れたかという謎を解決する。観音寺説からは、父正継の浅井氏家臣時代の動向を知ることができ、究極のところ伝承しか存在しない三成石田村出生の事実を、先祖や父親の史料で裏付けることができる。

長浜城主の秀吉が鷹狩りの帰り喉が渇き、ある寺に立ち寄り茶を求めた。寺の小姓だった三成はぬるめの茶を大きな茶碗で出し、もう一杯求められると少し熱い茶を茶碗半分足らず出した。秀吉が試みにもう一杯求めると、三成は熱い茶を小さな茶碗で出した。秀吉はその気働きに感じ入り近習とした。

三成と秀吉の出会いについては「三献の茶」の逸話が『武

将感状記』など江戸時代の複数の逸話集に掲載されている。

三成と秀吉の出逢い

屋敷跡の東には、石田家の氏神といわれる八幡神社がある。昭和16年、神社の境内から、故意に割られた多数の五輪塔残欠が発見された。その一部には、天文・永禄の年号が刻まれているものもあり、石田

家に関係ある墓で、その滅亡後破壊されたのではないかと推定されている。昭和47年になって八幡宮の裏手に供養塔が新たに建立され、その周りに出土した墓石も改葬されている。

現地を訪れると「石田治部少輔出生地」と刻まれた碑と石田三成像が迎えてくれる。石田会館では三成の事跡をパネルなどで紹介している。石田に残る小字名「治部」は三成の官途「治部少輔」から命名されたもので、その「治部」の南西端に「堀端」あるいは「治部池」と呼ばれる小さな池があり、石田屋敷の堀の一部であると伝えられている。石田家は、土豪とか地侍とか呼ばれる「村の武士」であつ



▲石田会館横の「治部池」

た。この地には、他の土豪の家と同じように、堀と土塁で囲まれた70m四方ほどの屋敷があつたと考えられる。

三成の出生地・石田



案内人 太田浩司
淡海歴史文化研究所 所長



秀吉と三成の「出逢い」の像

長浜市文化観光課
07499 656521
米原市シティセールス課
07499 535140

関ヶ原から近江古橋へ

慶長5年(1600)9月15日、三成は敗色濃厚となった関ヶ原の戦場から離脱し、再起をかけて山中に姿を消した。次に姿を現したのは6日後の9月21日。近江古橋(長浜市木之本町)は自らの領地であり、母の生まれた里であった。

三成が匿われた法華寺の塔頭・三珠院があった場所は、小さな案内板がなければわからないほどの草叢にすぎない。ただ、周囲を取り囲む杉木立は、樵の姿に身をやつた三成が、今にも現れてきそうな雰囲気をも十分に醸し出している。「東浅井郡志」はこう記している。

——せつかくたり着いた三珠院もすぐに村民どもの知るところとなり、(中略)地頭に注進すると善説は突き上げられる。(中略)されば三成も安居なり難く、加え此の四五日間、木突落穂を拾い食して、腸胃を害ひ、歩行もなり難ければ、近傍の茶園にかくれ臥しけるに古橋村の手次郎太夫といへるもの、草刈に来て之を見付け、己が家に携え至りて切に之を養ふ。

しかし、追っ手は、与次郎の家まで迫ってくる。三成は与次郎に背負われ、法華寺裏山の三頭山中腹にある、「大蛇」と書いて「オトチ」と読ませる岩穴へと身を潜めるのである。

三成は最後まで献身的に匿ってくれた与次郎に対し、こう言った。

——今は我運命極まれりどものがれるべきにあらば、我を田中に渡すべし。さなば汝が身に危難來るべし。

しかし、与次郎は答える。

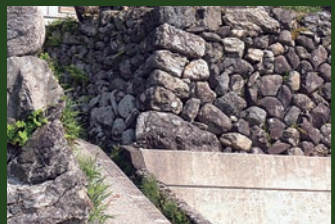
——いかでさる事候べき。猶何方へも忍ばせ給へ。

古橋ではこのような言い伝えが残る。

与次郎は、三成をカマス(藁で編んだ米や炭を入れる袋)に入れ、自宅のツシ(屋根裏の物置)に匿ったのだが、東軍の田中吉政らの知るところとなり、カマスごと背負って逃げようとした。しかし、高時橋の手前で行く手を止められ、カマスの中身を問われる。「芋だ」と与次郎は答えるが、槍でカマスを突かれ、袋の中の三成は「うっ」と短い声を上げてしまう。そして、とうとう捕われの身となるのだ。

その与次郎の屋敷跡は、龍泉寺(法華寺の末寺)の裏手にあり、与次郎が三成を背負ったまま、飛び降りたという石垣も、昔のままに残されている。

(田附清子)



▲古橋に残る三成ゆかりの石垣



▲賤ヶ岳合戦図屏風(右隻、長浜市長浜城歴史博物館蔵)



▲賤ヶ岳合戦時に秀吉の本陣となった木之本地蔵院



▲賤ヶ岳合戦図(長浜市長浜城歴史博物館蔵)



▲国友鉄砲(火挟み部分)

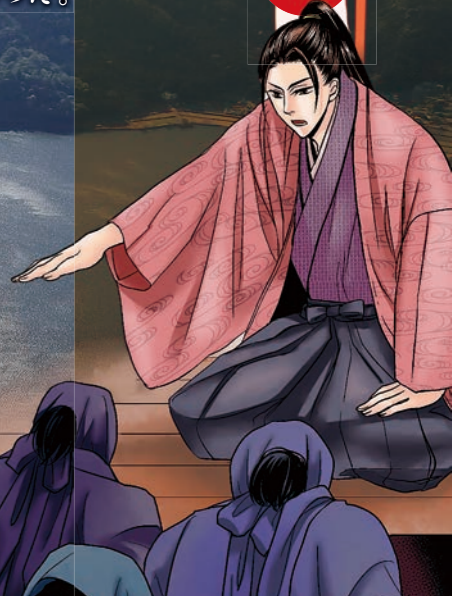
賤ヶ岳合戦で情報戦を制す

織田信長の死後、羽柴秀吉が柴田勝家を制した賤ヶ岳合戦。加藤清正ら七本槍の活躍が有名だが、その裏には、石田三成が放った「忍びの者」の暗躍があった。

大譜

ミツナリストが史跡案内

第二陣



賤ヶ岳上空から望む琵琶湖(左奥)と余呉湖(右手前)

賤ヶ岳合戦と三成文書

賤ヶ岳合戦は天正11年(1583)4月、羽柴秀吉と柴田勝家が北近江の余呉湖周辺で、織田信長亡き後の後継者争いに決着をつけるため戦った合戦である。両軍が対峙する中で、三成の活躍の場があった。同年3月13日付の石田三成書状(称名寺文書)は、秀吉軍のために諜報活動を行っていた浄土真宗寺院の称名寺に宛てたものである。柴田勝家の陣地がある柳ヶ

瀬に遣わしていた者が持ち帰ってきた情報を、秀吉に申し上げたところ、非常に満足の様子だったことを称名寺に伝えている。さらに、今後も柳ヶ瀬に人を配置するよう依頼している。この柳ヶ瀬に配置した者は、もちろん「忍びの者」であろう。おそらく、敵情を偵察する役目を負っていたと見られるが、称名寺はその「忍びの者」を管理・監督する立場にあったと考えられる。

派遣した「忍びの者」の活動

「忍びの者」の具体的な行動は、三成の書状から2日後に出された称名寺宛の羽柴秀吉書状(称名寺文書)によつて確認できる。それによれば、余呉湖周辺の山々に隠れている百姓に対して、秀吉側として柴田軍の首を取る手柄を上げたものは、褒美を遣わすと記されている。合戦を前にして村から逃れ、山々に潜伏している百姓に対して、秀吉側として行動した方が有利であるとの情報を流し続けていたので

ある。賤ヶ岳において秀吉軍が七本槍の活躍により、瞬間に柴田軍全体を敗軍に追いやった背景には、こういった三成や称名寺の指示による「忍びの者」の諜報活動があったと推察できる。

なお、「『柳家記』によれば、秀吉の「先懸衆」として柴田軍に突撃した将兵14人の中に、石田三成の名が見えている。石田三成の数少ない武功を示す記事として貴重だが、他の史料には登場しない。

石田三成と国友鉄砲

近江国坂田郡国友村(長浜市国友町)は、堺と共に日本を代表する鉄砲(火縄銃)生産地であった。三成もその領国内となった国友鉄砲鍛冶を重視していた。家康との対立が決定的となっていた慶長5年(1600)7月18日付の文書で三成は、国友の鉄砲生産について秀吉が長浜城主であつ

た時に定めた法度に従うように述べている。三成ら西軍から家康への宣戦布告状ともいえる「内府ちかひの条々」が出された翌日である。徳川方ではなく自らに優先的に鉄砲を納入することを求めたものと推定される。

長浜市文化観光課 0749-65-6521

案内人 太田浩司
淡海歴史文化研究所 所長



佐和山城跡と 周辺寺院をゆく

石田三成の城・佐和山城は、
近江国坂田郡(滋賀県長浜市・米原市)と、
犬上郡(彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町)の境に築かれた。
その麓で生まれ育った田附清子さんに、
佐和山城とその周辺寺院を案内してもらおう。

佐和山城大手の夕焼け



案内人 田附清子
佐和山城研究会代表
オンライン三成会会員

三成の城・佐和山城

佐和山は標高2300m、比高148mで、麓から30分もあればハイキングコースで本丸のあった山頂まで登ることができ、建造物こそ残っていないが、わずかに残る石垣や土塁

などの遺構から、この城の堅固さをつかうことができる。城の正面である大手は坂田郡側(彦根市鳥居本町)に向いて開き、城下町の名残である字名も多く残されている。し



▲佐和山城本丸に残る石垣



▲佐和山城図 文化11年(彦根城博物館蔵)

かし三成の屋敷は大手の谷とは反対の犬上郡側(彦根市古沢町)のモチノキ谷に建てられていた。城の本丸は関ヶ原合戦後に

10m以上切り落とされたという。三成に代わって領主となった井伊家は、元和の一国・城令に則り、完膚なきまでに三成の城を破壊したのである。

佐和山麓の寺に三成を偲ぶ

井伊家の佐和山入封に伴って、遠江(静岡)井伊谷から移ってきた龍潭寺には佐和山城の陣鐘が遺されており、三成の屋敷で使われていた板戸は今も使用されている。三成の遺墨「残紅葉」はこの寺の什宝である。

清涼寺は三成の重臣 嶋左近の屋敷地だったと伝わる。本堂の裏山には井伊家11代藩主が建てた「石田群霊碑」がある。左近佐和山城と並び、三成に過ぎたるものとして謡われた百間橋はこの寺の前から松原内湖に架けられていた。



▲清涼寺七不思議の一つ、優雅な女人に姿を変えるというタブノキ

三成を慕う足軽のエピソード

鳥居本町を通る中山道沿いに専宗寺がある。かつてあった太鼓門の天井板は佐和山城の門扉を用いたものだという。身分の高低を問わず家臣や領民を大事にした三成を

慕った足軽 北助が落城する佐和山城から持ち帰ったという逸話が残っている。一途に三成のことを慕う北助の想いが、400年以上も経った今も伝わってくるようだ。



▲三成を慕う足軽が落城する佐和山城から持ち出したと伝わる門扉

町なかの寺に三成を偲ぶ

彦根城のお堀にかかる京橋から伸びる夢京橋キャッスルロードの中ほどに位置する宗

安寺の通称「赤門」が、佐和山城の大手門だといふ。この寺には、三成が亡き母の菩提を弔うために建立した瑞岳寺(説には鳥居本町笹尾の少林寺に瑞岳寺を移したと伝わる)に祀ってあったという地藏尊像と千体仏が安置されている。



▲宗安寺の「赤門」と礎石

三成の佐和山御殿を移築したと伝わる妙源寺は、本堂と庫裡は建て替えられたが、彦

根のもう一つの「赤門」と呼ばれる山門は、佐和山城内の城門であったと伝わる。傷を隠すかのように裏に向けて使われている柱材は、解体修理の際に表を向けると無数の矢穴痕が姿を現した。関ヶ原合戦後の東軍による佐和山攻めの激しさを物語っているようでもある。

彦根市観光交流課
07499306120



▲佐和山城内の城門だったという妙源寺の「赤門」



▲仙琳寺の石田地藏



▲龍潭寺の石田三成像

石田三成ゆかりの人々

三成が義を尽くして仕えた天下人
豊臣(羽柴)秀吉 とよとみ(はしほ)ひでよ

秀吉が大名として初めて築城した琵琶湖畔の水城・長浜城は、三成をはじめ加藤清正、福島正則、黒田長政らがともに青春時代を過ごした。関ヶ原の合戦で三成の運命を左右することとなる小早川秀秋も、秀吉のもと長浜で生まれ育った。秀吉が城とともに築いた城下町は活気にあふれ、その面影は今も大切に残されている。



長浜城歴史博物館
ながはまじょうれきしほくぶつかん
〒長浜市公園町10-10
☎0749-634611
地図 裏表紙

米原に首塚の祠が建つ三成の盟友
大谷吉継 おおたによしつぐ

三成の盟友・大谷吉継は長浜市余呉町小谷の出身といわれる。秀吉の奉行の一人として賤ヶ岳合戦などで手柄を立て、越前敦賀城の城主となった。関ヶ原の合戦では三成率いる西軍に加わり善戦するも、東軍への寝返り組の攻撃にあい自害。その首は袋に包まれて運ばれ米原の地に埋められたともいわれ、現地には祠も建てられている。



大谷吉継の首塚
おおたによしつぐのくびつか
〒米原市下多良
☎0749-519082
(二社びわ湖の素DMO)
地図 裏表紙

三成と敵対し、雨壺山にも陣を構えた
徳川家康 とくがわいえやす

秀吉の死後、三成と対立し、関ヶ原の合戦後、佐和山城攻めの際、雨壺山に陣を張り指揮をとったという。説明板付近から、佐和山のほか、伊吹山や磯山、彦根城、琵琶湖をパノラマで見ることが出来る。

徳川家康陣所跡
とくがわいえやすじんしよあと
〒彦根市芹川町・後三条町ほか
☎090-6652-1805
(佐和山城研究会)
地図 裏表紙



賤ヶ岳古戦場

しずがたけこせんじょう
地図 P.4, 裏表紙



三也(三成)の名が初めて一次史料に登場するのが賤ヶ岳合戦。山頂からは琵琶湖と余呉湖を一望できる。

〒長浜市木之本町・余呉町
☎0749-82-5135(木ノ本駅前案内所)

石田三成出生地

いしたみつなりしゅつじょうち
地図 P.2, 裏表紙



石田三成屋敷跡に建つ石田会館では関連資料を展示。周辺に三成産湯の井戸などの関連史跡がある。

〒長浜市石田町576
☎0749-62-8285(石田会館)

専宗寺

せんしゅうじ
地図 P.6



三成を慕う足軽が落城する佐和山城から持ち出したと伝わる門扉が持っている「石田地藏」を安置。

〒彦根市鳥居本町1725
☎0749-22-7126

仙琳寺

せんりんじ
地図 P.6



三成が水を汲んだと伝わる井戸がある。領民たちが供養のため隠し持っていた「石田地藏」を安置。

〒彦根市古沢町946
☎0749-23-9877

石田三成ゆかりの地を訪ねる

佐和山城跡

さわやまじょうあと
地図 P.6, 裏表紙



三成の居城跡。山頂に本丸跡がある。団体等で登る時は清凉寺(TEL0749-22-2776)まで問い合わせが必要。

〒彦根市古沢町・佐和山町など
☎0749-30-6120(彦根市観光交流課)

大洞弁財天(長寿院)

おおほらべんざいてん(ちようじゆいん)
地図 P.6



経蔵に並ぶ大黒様は、内湖に架けた百間橋の余材で三成の顔に似せて作られたともいう。

〒彦根市古沢町1139
☎0749-22-2617

龍潭寺

りょうたんじ
地図 P.6



境内には三成の銅像や佐和山観音像があり、裏山から佐和山に登るハイキングコースも整備されている。

〒彦根市古沢町1104
☎0749-22-2777

清凉寺

せいりょうじ
地図 P.6



井伊家の菩提寺。三成の重臣・嶋左近の屋敷地だったと伝わる。石田一族の霊を供養した「石田群霊碑」が建立されている(非公開)。

〒彦根市古沢町1100
☎0749-22-2776

宗安寺

そうあんじ
地図 P.6



通称「赤門」が佐和山城の大手門だと伝わる。三成の母の菩提寺にあったという地藏尊と千体仏を安置。

〒彦根市本町2-3-7
☎0749-22-0801

蓮成寺

れんじょうじ
地図 P.6



佐和山城の法華丸を移した寺だと伝わる。三成の念持仏であった鬼子母神像を年2回公開。

〒彦根市栄町1-5-11
☎0749-22-4333

妙源寺

みょうげんじ
地図 P.6



11月に三成と一族の供養祭が行われている。朱塗りの山門が佐和山城の城門だったことをうかがわせる。

〒彦根市河原3-4-32
☎0749-24-1837

大原観音寺

おおはらかんのんじ
地図 P.2, 裏表紙



石田町からトンネルを越えた先にある。三献の茶の逸話にちなんだ「三成水汲みの井戸」がある。

〒米原市朝日1342
☎0749-55-1340

成菩提院

じょうぼだいいん
地図 裏表紙



信長や秀吉などの武将が宿営した記録や「石田三成十三ヶ条成菩提院村掟」が残されている。

〒米原市柏原1692
☎0749-57-1109

春日神社(世継)

かすがじんじや(よつぎ)
地図 裏表紙



「近江國坂田郡志」によれば、三成が戦勝祈願し、手ずから一株の藤を植えたとされる。古木が藤棚をつくっている。

〒米原市世継1066
☎0749-51-9082((一社)びわ湖の素DMO)

横山城跡

よこやまじょうあと
地図 P.2, 裏表紙



三成が生まれた石田の東の丘陵に築かれた。信長の武将であった秀吉が城番として守備していた。

〒長浜市石田町など
☎0749-65-6510(長浜市歴史まちづくり室)

国友鉄砲ミュージアム

くにともてっぽうみゆーじあむ
地図 P.4, 裏表紙



国友は大坂の堺とならぶ鉄砲(火縄銃)の産地として栄え、三成ら戦国武将の注文を受けていた。

〒長浜市国友534
☎0749-62-1250

木之本地蔵院

きのもとじぞういん
地図 P.4, 裏表紙



本尊の姿を写してつくられた背丈6mの地藏菩薩が、参拝者を迎える。賤ヶ岳の合戦で秀吉の本陣となった。

〒長浜市木之本町木之本944
☎0749-82-2106

己高閣・世代閣

ここうかく・よしろかく
地図 P.4, 裏表紙



己高山中の廃寺の寺宝などを收藏する。三成の母・瑞岳院の墓石(長浜市指定文化財)も安置。

〒長浜市木之本町古橋1100
☎0749-82-2784(鶴足寺案内所)

法華寺跡

ほっけじあと
地図 P.4, 裏表紙



「三献の茶」もう一つの舞台。関ヶ原合戦後に三成が置かれたという。本堂に続く石段と石垣のみが残る。

〒長浜市木之本町古橋
☎0749-82-2784(鶴足寺案内所)

大蛇の岩窟

おとちのがんくつ
地図 P.4, 裏表紙



関ヶ原合戦後、三成が置かれたという古橋の山中にある洞窟。危険なので単独での出入りは控えること。

〒長浜市木之本町古橋
☎0749-82-2784(鶴足寺案内所)

米原と彦根に館跡が残る三成重臣
嶋氏館跡 しまじまごん

石田三成の家臣。近江生まれとする説もあり、地元の米原市飯には嶋氏館跡が残っている。その名家老ぶりは「三成に過ぎたるもの二つあり嶋の左近に佐和山の城」と謳われた。佐和山西麓、現在の清凉寺(次ページ参照)敷地に屋敷を構え、佐和山城の三の丸に常駐したと伝わる。関ヶ原の合戦での勇猛な奮戦ぶりは東軍中에서도語り草となったという。



嶋氏館跡
しまじまごん
〒米原市飯
☎0749-51-9082
(二社びわ湖の素DMO)
地図 裏表紙

小谷城で生まれた浅井三姉妹の長女
淀殿(茶々) よとどの(ちやちや)

北近江の戦国大名 浅井長政と織田信長の妹・市との間に生まれた三姉妹の長女。秀吉室となり、秀頼を授かる。秀吉没後は、大坂城の最高実力者として徳川

豊臣家の命運を背負った
片桐且元 かたぎりかつもと
長浜市須賀谷町出身の豊臣家重臣で、賤ヶ岳「七本槍」の一人として知られる。近江衆としての武力・行政・技術などの分野で活躍した。関ヶ原の戦い以降も豊臣秀頼に仕えていたが、大坂の陣では一転して豊臣家に対した。

家康との政治交渉に臨んだが、大坂の陣での落城で、秀頼とともに自害した。三姉妹の次女・初は京極高次室、三女・江は徳川秀忠室。

豊臣秀吉の弟であり、一門衆として文武ともに豊臣政権を支えた人物。信長の後継を争った賤ヶ岳合戦では、「美濃大返し」を行う秀吉軍の到着まで柴田勝家

軍の猛攻をしのぎきるなど、秀吉の天下に大きく貢献した。晩年は大和・紀伊・和泉の3ヶ国など計110万石を治める大名となった。

三成とともに豊臣政権を支えた
豊臣(羽柴)秀長 とよとみ(はしほ)ひでなが



イラスト：もとむらえり
松本匡代著「石田三成の青春」より



長浜・米原・彦根



「水」は生き物を育み、祈りの対象であるとともに、暮らしの中にとけこんできた。琵琶湖の北東部に位置する長浜・米原・彦根の水辺景観を紹介しよう。

竹生島

水神の宿る島として信仰されてきた琵琶湖のハブスポットで、日本三弁才天の一つとして知られている。都久夫須麻神社本殿と宝蔵寺唐門は、国宝に指定されている。



菅浦の湖岸集落景観

湖岸まで山がせり出す地形で、湖上交通の要衝として知られていた。中世に遡る集落運営の仕組みとともに維持されてきた水辺の暮らしが今も息づく。重要文化的景観にも指定されている。



朝日豊年太鼓踊および伊吹山麓の太鼓踊と奉納神社

雨乞い踊りは約1300年前に始まったとされ、朝日地区の八幡神社など山麓周辺の9ヶ所で伊吹山の水神へのお礼として奉納されている。



東草野の山村景観

伊吹山から流れ出る姉川源流の山村。大雪に備え、軒下の空間確保のためにひさしを長くした「カイダレ」、貯水施設「イケ」、水路をせき止めた洗い場「カワト」などの工夫が見られる。



伊吹山西麓地域

ヤマトタケルを撃退した伊吹山の神を水神として祀り、古くは修験者が山中で滝行を行い、尾根には広大な寺院が造営された。当地の人々は今も伊吹山を水信仰の対象としている。



醒井宿

居醒清水などから湧き出る地蔵川の水中に咲く梅花藻(バイカモ)で有名。江戸時代に宿場を通過する大名や役人に人足や馬を提供した施設が残り、完全な形で復元されている。



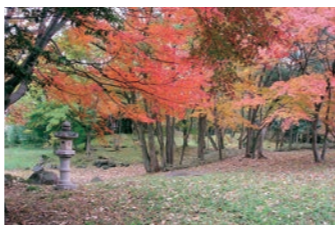
彦根城

琵琶湖や内湖に接して築かれた「水城」で、堀は城下町への物資輸送路としても利用された。その痕跡は、船町という地名や堀沿いに残る船着場跡、船頭らの屋敷跡などに見える。



玄宮園(玄宮楽々園)

彦根城北東の大名庭園で、入江に架かる九つの橋などのある回遊式庭園。池の水は湖の水位と連動して波打ちぎわが変化する汐入式で、淡水利用としては日本唯一の庭園。春と秋に特別公開される。



旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園

琵琶湖畔の彦根藩下屋敷。池の水は湖の水位と連動して波打ちぎわが変化する汐入式で、淡水利用としては日本唯一の庭園。春と秋に特別公開される。

三成マンホール 観光しながら探索!

石田三成は、長浜市で生まれ育ち、米原市で羽柴(豊臣)秀吉と出逢い、彦根市にあった「佐和山城」を居城としていた。そんな三成をイメージしてデザインされたご当地マンホールが「三成マンホール」。3市に点在する三成ゆかりの地7ヶ所に設置されている。

(設置場所) 長浜市「石田町」「大通寺前」「木之本町古橋」
米原市「大原観音寺前」「成菩提院前」
彦根市「JR彦根駅東口歩道」「佐和山城跡麓(佐和山史跡公園駐車場)」

※カラーマンホールは彦根市のみ



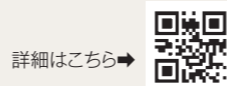
←詳細はこちら

こんなに逢える!

MEET三成



米原市特産品市場 オリテ米原 (ネットショップ)



詳細はこちら



モノグラム仕様
三成仕様2WAYトートバッグ
17,600円

彦根市観光案内所

所 彦根市古沢町40-7 JR彦根駅西口
開 3月~11月 9:00~17:00
12月~2月 10:00~16:00
休 12/29~12/31 地図 裏表紙

彦根市開国記念館

所 彦根市金亀町3-2 地図 裏表紙
開 8:30~17:00(最終入館16:45)
休 12/25~12/31

佐和山城御城印に関する問い合わせ: 0749-30-6120 (彦根市観光交流課)



佐和山城御城印 各300円

長浜城歴史博物館 ミュージアムショップ

所 長浜市公園町10-10
☎0749-63-4611
開 9:00~17:00
休 不定 地図 P.2 裏表紙



1,000円

1,870円

580円

880円

1,320円

2,200円



▲石田三成の墨絵(墨絵師 御歌頭)と佐和山城のジオラマ

ひこね街の駅 治部少丸

佐和山城ジオラマや甲冑など展示

石田三成関連の展示を行っている。

所 彦根市河原3-2-23

☎090-3167-7980

(花しょうぶ通り商店街)

開 11:00~18:00 休 無休 無料 地図 裏表紙



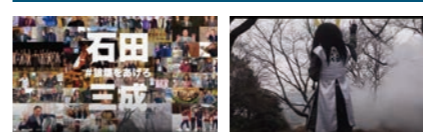
←詳細はこちら

三成めし

石田三成をテーマに考案

長浜・米原・彦根市内の飲食店などが石田三成をテーマに考案した飲食メニューやおみやげ。認定店はロゴステッカーやのぼりが目印。

「石田三成を大河ドラマの主人公に!」



←詳細はこちら

三成タクシーでめぐる旅

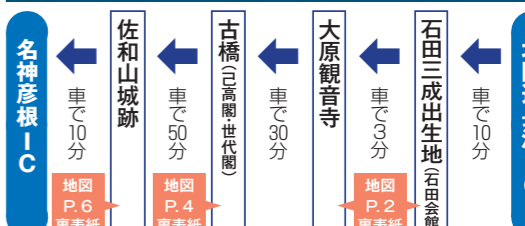
長浜・米原・彦根の三成ゆかりの地をガイド付きでめぐる「三成タクシー」。JR長浜、米原、彦根の各駅前発着で運行中! ゆかりの地について一定の研修を受けた認定ドライバーが案内する。



ご予約・お問い合わせ先

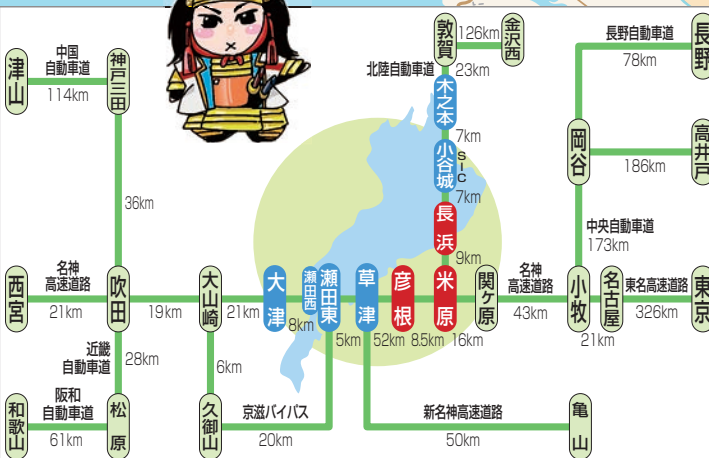
近江タクシー
☎0749-24-0106

石田~古橋~佐和山「三成の生涯」ドライブコース



名神彦根IC

石田三成 関連マップ



近江路(米原)まで車でお越しの場合

- 東京…東名高速東京ICより約410km (所要時間: 約5時間10分)
- 名古屋…東名高速名古屋ICより約88km (所要時間: 約1時間10分)
- 金沢…北陸自動車道金沢西ICより約170km (所要時間: 約2時間20分)
- 大阪…名神高速吹田ICより約110km (所要時間: 約1時間30分)



近江路(米原)まで電車でお越しの場合

- 東京から新幹線で約2時間10分
- 名古屋から新幹線で約30分
- 金沢から特急で約2時間
- 新大阪から新幹線で約40分
- 岡山から新幹線で約1時間55分
- 博多から新幹線で約3時間25分

